

Title: 真面目な party girl

Project: Switzerland Name: 相浦 沙絵

1年生の終わりに女子ラクロス部を辞めてから2年生の夏学期と夏休み、ただ何となくバイトなどをして何となく過ごしてしまっていた。このままでは大学生活何もこれといったことをせずに終わってしまう…とぼんやりとした焦りを感じ始めていた。そんな時に友達に誘われて見学に行ったのがGETだった。とりあえず何かしら大学生活に彩りを添えるようなものをしたい、という漠然とした思いで入ることを決めたが、本当に入ってよかった、とGETの活動も終盤に入った今、心から思う。



本当にいろいろ、刺激を受けるプロジェクトだった。受け入れ中はスイス人とともに自分の慣れ親しみのある東京を歩くことにより、新しい視点から東京を見ることができた。訪問では、世界には本当にいろいろな文化があるのだ、という当たり前のことが理解できていなかったことに気付かされた。異文化というと、昔住んでいたオーストラリアを連想し、西洋文化というとオーストラリアと同じだろうと思っていたが、スイスには全く異なった文化があった。学生の間にもっといろいろな国を見てみたい、と強く思った。GETというのは、よく考えると不思議なサークルだ。数枚の写真を見て数通のメールをやりとりした人を家に泊め、泊まりに行き、交流する。実際、想定外のことも幾分あった。しかし、とても充実していたし、得たものは計り知れないし、何より本当に楽しかった。

最後に、協力してくださった企業、国際機関、大使館の方々、顧問の大田先生、GET2009メンバー全員、このプロジェクトを支援してくださった全ての方々に感謝したいです。ありがとうございました。

Title: 強制連行

Project: Switzerland Name: 梅村 百代

私がGET09の活動に参加したきっかけは、10月頃に先輩に誘われ(強制連行?)だからだが、今思えば最初から最後までなかなか刺激的な活動だった。途中活動していくなかで与えられた仕事が満足にこなせず、投げ出したいくなるときも多々あったけれども、受け入れ訪問ともになんとか参加できて良かったと思っている。



海外に行くのも初めてで、パスポートを取ることははじまった私の国際交流であった。受け入れの直前に、「あと少しでスイス人がやってくる」とナーバスになってしまった。また実際に受け入れプログラム中も自分の英語のできなさからひどく落ち込んでしまった。しかし、それでも励ましてくれたパートナーや、日本メンバーのお陰でなんとか乗り切ることが出来た。

訪問のときも、本当に不安でしょうがなかった。そもそも飛行機が苦手なんです。スイスについてからも、初めての海外ということや、ハードなスケジュールは体力的にきびしかった。それだけに、訪問最終日にスイス人メンバーが日本メンバー全員にTシャツに寄せ書きしたものをプレゼントしてくれたときは、感動して涙がこぼれた。

なんとなくスイスまで強制連行されてしまった私だが、GETの活動を通しての苦勞、喜びはこれからの自分にとって忘れることのない経験であったと思う。一人では、こんな密度の濃い活動をするなど不可能でした。最後まで迷惑をかけてしまったスイスプロジェクトのメンバー全員に感謝したいです。





Title:この忙しさって何？去年と全然違うじゃん！！

Project: Germany Name: 大江 恭平

このGET2009の活動を始める以前、率直に言って私はこの活動を少し軽く見ていたように思える。私はGET2008でスイスプロジェクトに所属していたが、今振り返ってみると私にとっての1年間の内容やその密度というのは全く異なる。もちろん、GET2008の活動は私にとって有益なものであった。しかし今年は前回にも増して“濃い”1年間であったように思える。苦勞した点として特に記憶に残っているものと言えばやはりGET全体の副代表としての仕事とプロジェクトのチーフという2つの仕事を自分の中で振り分けることであろう。今年にはGET全体としてプロジェクト編成の変動やGETのこれまでの資料の統一化、など様々なことがあり、またケルン大学側の学生代表と交流日程、活動全般をうまく詰められなかったことがあった。特に10月には、日本側のドイツプロジェクトメンバーが二人脱退したことや向こうの代表と連絡が難航したことがあり、私自身投げやりな気分になったこともある。こうした中で、ある時は全体のことに比重を置き過ぎ、その逆にプロジェクトの活動に比重を置き過ぎたこともあった。そしてGET2009としての1年間の活動を終えつつあり、私自身の中で何かが1段階上に成長したように感じる今、改めて周りの人たちに感謝の気持ちを感じる。GET全体の今年の目標として「多くの人に出会う」ということを掲げたが、活動を進めていく中でその忙しさからしばしば考えや姿勢が内向きになってしまったこともあった。そうした中で支えてくれた代表やGET2009メンバー、顧問の太田浩準教授、支援してくださったドイツ大使館をはじめとする諸団体・企業の方々に改めて感謝の念を伝えたい。



Title:チェンジ

Project: Switzerland Name: 岡田 和美

まず、GET09のみんなに感謝を叫びたい。GETに入った時は、未経験なパワポ作成や企業訪問や大使館への連絡などの仕事を経験して、続けられる自信がなく、やめようと思ったが、それぞれ個人がもつ能力に関係なく、できることもできないことも、みんなで協力して相談しながら仕事をしているのだ、と気づき、自分はできそこないだから、とか初めてだから、とか言って言い訳をつけていたことを反省した。そんな情けない私にも、優しく親しく接してくれたメンバー皆に一番の感謝を伝えたい。GETに入ってよかった事は国際交流とは関係なく、このメンバーに出会えたことである。国際交流という面から見ると、小学生のときに参加していた国際交流プログラムで、国際交流は一過性のもので、だからこそよい部分だけを見られて、きれいな思い出として自分の心の中に残っていくというのを感じていたが、このプロジェクトで180度変化した。無条件に楽しかった国際交流ではなかった。環境の違う場所で育った人と人が一緒に過ごすには、我慢したり、注意したり、自分にとって当たり前のことでも言葉にして説明しなければいけないということを学んだ。辛いこともあったが、パートナーがいつも私の気持ちを知りたい、理解しようとしてくれた姿勢を見て、言葉や文化の壁を超えるよりも、その壁にぶちあたったときの、相手への敬意や誠実さがなによりも大事なのだと思った。またお別れのときに、「See you again!」といわれ、それをきれいごととしてとらえなくなっていたところに自分の変化を見た気がした。大学に入ってからこりかたまっていた自分を変えてくれた、GETPJに敬意を表したい！





Title: スイス美人

Project: Switzerland Name: 石田 賢慈

私が、GET でスイスプロジェクトを選んだ理由は、昨年のスイスプロジェクトメンバーから「スイスの女の子はめっちゃめっちゃ美人だよ」と言われたからだ。青い目でブロンドと聞かされたらどこにも断る理由がない。最初はこのような単純な動機でプロジェクトをはじめたわけだが、いろんな活動をしていくうちに GET の魅力に取り付かれていった。



企業訪問での勉強、ミーティングでの集中した話し合い、その後の飲み会。大学生活のなかでここまで自分をさらけ出してがんばった活動はGETが初めてではないかと思う。スイスプロジェクトではチーフというありがたい役職を頂いたが、自分の意見をみんなにわかってもらう難しさ・人の意見の尊重など多くのことを知った。小さなことで腹が立ったりして自分のキャパの小ささを実感することも多々あった。でも、そんなときに支えてくれたサブチーフ、プロジェクトのメンバー、GET のみんな、先輩方には本当に感謝の言葉だけでは言いあわせない。GET では本当に電話一本ですぐに集まれるような最高の友達に出会うことが出来た。サブチーフと飲みに行ったときに彼は、「GET ほどエネルギーのある団体に所属しているみんななら何でも出来るのではないかな?」と言っていた。その通りであると思う。GET が終わって若干燃え尽き症候群になりそうな今こそその言葉を思い出して更なる大きなことにそのエネルギーを費やして残り半分を切ったとなった大学生活を精一杯送りたい。最後に言いたいことは「スイスの女の子はめっちゃめっちゃきれい!」ということである。

Title: 頭と体を動かして国際交流の意味を知る

Project: Germany Name: 小間口 早春

GETの一番の特徴は、事前準備を含めてプロジェクトが全て参加メンバーによって企画、運営、報告される点である。予め用意された企画に参加する場合と違い、GET では自分たちが求めている成果やそれを得るための手段をより深く、細かい部分まで突き詰めていく必要がある。これは考える以上に大変な作業であった。事前準備を重ねて組み上げたスケジュールも不測事態が発生すれば即座に代替案に切り替えなければならぬ。



プロジェクト開始前まで、国際交流という言葉には複数の国の人々が互いの文化を理解するために努力しようというイメージしかなかった。しかし実際に自分が国際交流を行う場に立たされてみると、それは価値観の違いや押し寄せるカルチャーショックを全力で乗り越えなければならない泥臭いものであることに気付いた。お手製のプロジェクトを成功させようとして気持ちに余裕がなくなっているときはなおさらである。

人間なのだからいつもにこやかでいられるわけではない。プロジェクトが上手くいかないときだからこそ、ハードスケジュールで疲労が溜まっているときだからこそ、もう一息力を振り絞って自分が理解できないものを理解しようとする。この努力が国を超えた人間関係に拡張されたとき、それが「国際交流」の始まりとなるのではないだろうか。





Title:ダーリンは異邦人。

Project: Switzerland Name: 澤田 雄

大学2年生になったとき、1年生のとき特に何もやらずにダラダラ過ごしていたのが嫌でそれを解消したいと思い、環境の変化を求めてGETに入った。GETでの私に与えられた仕事といえば、サブチーフとweb係。webの知識など特に無かったが色々少しずつ学んで組み立てていくという作業のプロセスは、今思えばGETというプロジェクトそのものであった。受け入れのプランを考える際、メンバーで意見を出し合い、費用を見積もったが否や、様々な都合でプランの建て直しになることもしばしばであった。「GETの理念は、scrap and buildだ」とは身近にいたOBの方から頂いた言葉である。そして、その組み立てていく作業は、時にその「1年完結型」の活動ゆえに、苦労も多かったように思う。しかし、それを可能にし、何とかプロジェクトを終えられたのは、メンバー全員の頑張りであった。



私は特に「国際交流」ということを念頭においてGETの活動に参加したわけではなかった。しかし、受け入れ、訪問を終えた今、そのひどく抽象的な言葉の、潜り戸まではたどり着けたと思う。私にとって、「国際交流」とは如何に言葉の壁がある人と楽しめるか、ということであった。自身の英語のつたなさ故に意図することが伝わらず、悔しい思いをしたことは何度もあった。しかし、パートナーが教えてくれたように、それにもめげずにtryすることが大事で、それすらも楽しめばよいのであった。英語が通じないなら、身振り手振りで伝えればよかったし、そもそも言葉にする必要なんて無く、楽しめば良いだけの瞬間だったたくさんあると実感した。最後になったが、1年間通じてGET以外のプライベートでも仲良く、いつでも一緒に楽しんでくれたメンバー全員に感謝したい。

Title: パートナーはアップルジュース疑惑

Project: Switzerland Name: 清水 洋平

私は、GETの活動を通じて大きく成長したと思っている。活動に参加することを決めた頃に考えていた以上の経験をすることができた。それは、企画や運営に携わり新しくモノを作り上げることから、そして活動の目的である国際交流から得られたものである。

それは、企業訪問や大使館への渉外やジョイントフォーラムに向けての勉強会において特に感じられた。電話をかける際のマニュアルを作るなど、私たちの活動が単なる学生としてではなく、1つの活動団体としてという今までに感じなかった責任感をもつことができたからである。



国際交流で得られた経験は、何よりも相互ホームステイから得られたものだと思う。私は海外旅行が好きで、そこでは体験できないことをしたくてこのサークルに入ったが、よい選択をしたと本当に感じている。国内外にかかわらずクラブに行くなんてことは私自身では思いつきもしなかったが、このような思い切ったことをすることで、自分の見限っていた枠を超える一歩を踏み出していったのではないかと思う。その枠を超えて今までの自分の枠の内を見ると、いかに狭く偏ったものであること、そして枠の外を見ると、理解できず恐ろしく感じるほどほど広い世界があることがわかった。私は怖いもの見たさというべきか、これからも様々世界を見ていきたい。

今回の活動にご協力をしてくださった皆さまには、本当に感謝したい。この経験から得られたことで何か還元することができたらと思う。そして、カラオケでテーブルを片づけてまで踊り狂う愉快的なパーティーボーイズ・ガールズたちと、短い間ではあるがこの大学生活の中で一緒に活動できたことを何よりも誇りに思う。





Title: Me, as a Japanese Girl

Project: Germany Name: 武井 みなみ

異国の地で、肌の色もしゃべる言葉も育ってきた文化も違う人々と交流することの難しさと、その楽しさを初めて体験したのは 13 歳の春に米国に引っ越した時。以来私は国際と名のつくものには手当たり次第興味を示して外国ばかりに目を向けるようになり、GETに入った理由も「国際交流」をしてドイツ人という自分とは異なる国の人と仲良くなりたい！という単純な理由からだった。しかし、実際に活動を終えてみて、GETでの活動は単なる異文化理解以上にいろいろな事を学び、感じられたと今振り返って思う。中でも一番の驚きだったのは、日本という国を、そして日本人としての自分を見つめなおす機会となったことである。受け入れ中に、外国人を連れて自分の慣れ親しんだはずの日本を案内、紹介することは考えていた以上に難しく苦戦した。英語で説明しようとして初めて知った情報もたくさんあった。一方で訪問中は、初めて訪れるドイツという国を満喫していたにもかかわらず、どこかで “God, I miss Japan!!” と感じている自分もいた。これらは 3 年間アメリカに住んでいた時には感じられなかった感覚である。16 歳で帰国してからも、常にまた外国へ行くチャンスをうかがっていた私が、こんなにも日本を恋しいと思うのは本当に新鮮な感覚だった。“My Country” “My Language” “Myself” といった「My = 自分」という枠からはみ出してみても初めてわかることがある。「国際交流」を通じて自分を「Rediscover = 再発見」とは、まさしくそういうことなのではないか、なんてめずらしくマジメなことを考えることができたこと。これが私のGETの活動を通して得ることのできた最高の経験だったと思う。



Title:むちゃぶりの神に愛されて

Project: South Korea/Switzerland Name: 田尻 佑介

私の GET09 の活動スタートは 10 月だった。遅れて入ったうえにメンバーは顔を合わすのも初めての人がばかり。さらに交流する大学が香港から韓国に代わり、そのためメンバーを集めないといけない。正直先行きが見えず不安だった。しかし様々な活動を通じてメンバーとの仲は本当に深まった。また金融危機の影響で韓国の学生と日本で交流することは困難になったが、初めての韓国で単なる旅行では得られない様々な経験ができた。いつの間にかメンバーが足りないスイスプロジェクトにも関わるようになり、パートナーの Gregor を中心にスイスの学生と貴重な 3 週間を過ごすことができた。



GET09 の活動中、予想もしていなかった状況に対応しなければならないことがあった。当時は無我夢中になって何とかしようと必死で、もっといいやり方があったのではと後悔することもあったが、今から振り返ればこのような出来事が私をいろんな意味で成長させてくれたと思える。思えば中学生の頃に 2 週間のカナダでのホームステイを経験して以来、国際交流という言葉に何となく憧れを抱いていた。だが大学に入学してからもなかなか行動に移せず、国際交流してみたいという思いはくすぶったままだった。そんな思いも今回の GET09 の活動を通していい形に昇華できたと思う。今回、韓国とスイスという 2 つの国でできたつながりをこれからも大切にしていきたい。最後にこのプロジェクトを支えてくださった多くの方々、そしてメンバー全員に感謝したい。





Title: The Longest Year

Project: Germany Name: 田辺 大介

ただ学生のうちに海外に行きたいと思って、ただ1人じゃ思っているだけで踏み出せないと思ったから。そんな理由で入った GET。この1年間を振り返るとあつという間だった気もするが、GET のメンバーと出会ってから1年しか経っていないと思うと、恐ろしく長い1年間だった気もする。様々な企業を訪問した夏学期。なかなかアポが取れずに凹んだこともあったが、一社会人として企業と関わるという貴重な体験によって自分自身少し成長できたと思う。夏休みには、国際交流団体らしく皆で香港に旅行に行き、そこでメンバー同士が一気に打ち解けあった。冬学期には実際に受け入れ訪問の準備、ドイツ人たちとの連絡を取り始め、やっと国際交流団体に所属している実感がわいてきた。準備し始めてから、実際に受け入れに至るまでは、あつという間だったが、今 GET の活動を終えて振り返ると、違う国の学生同士が連絡を取り合い、日程から何もかも一からプロジェクトを立ち上げ、お互いの国を訪問し、共同生活をする——改めてすごいサークルだと思う。今まで、海外経験がなくヨーロッパなんて遠い世界だったけれど、PJを通して海外に友達ができ、世界はもっと身近な存在になった。もっと英語を勉強しておけばよかったとか、他にも様々な後悔はあるが、ドイツにいる友達に次に会う時までにはもっと話せるようになろうという語学に対する向上心も生まれたし、海外を旅してもっと世界の色々な物を見てみたいという気にもなった。GET の活動を通して経験したこと、そこから感じたことは本当に大きかったと思う。GET09 のメンバー、そして1か月間生活を共にしたケルン大の学生と出会えた GET にいたこの1年間は絶対に、忘れられないだろう。



Title: 想定外です。

Project: South Korea/Switzerland Name: 常安 郁彌

GET09の活動は様々な面において私にとって想定外の出来事が多かった。今年の活動が実際にスタートし始めたころから、新歓に苦しんだり(特に例年集まりのよいはずの女性メンバー)、香港での活動が休止になったりした。また、香港での活動の代わりにどうしてもアジアで交流したいという気持ちから顧問の先生に韓国の大学を紹介していただいたのに、いざ交流となったところで金融危機に襲われ、あえなく韓国の学生が日本に来ることができなくなってしまった。活動するメンバーがやっと集まったと思っても、何人かが途中で辞めてしまったりもした。そうこうしているうちに私自身、メンバー不足から韓国プロジェクトのみならずスイスプロジェクトにまで足を引っこんでいた。



次々に起こる問題にただひたすら「おお、どうやって manage しようか」とひたすら考え、副代表、チーフ、各メンバーとともに多くの方々のご協力も得て本当になんとかやってきたという気がする。「突っ走ってきた」というような爽快感はない。どうにかねじ込んできたという方が適切かもしれない。でもやっぱりその苦勞に見合った、というよりも何倍もの感動を実際のプロジェクトでは得られた。「またな」と言い合える友人が海外にできること、それが私にとっては何物にも代えがたい。実は私と副代表で今年の活動として初めに掲げていたテーマがあり、それは「たくさんの人に出会う」であった。とてもシンプルで気に入っている。実際のところ交流以前の活動も含め実に様々な人と出会えた。本当に皆様に感謝したい。人との出会いが善くも悪くも人生の歯車を変えていくのだと思う。

最後に、出会って一年も経っていないのに数十年來の友に感じるメンバーに、感謝を述べて終りに代えたい。



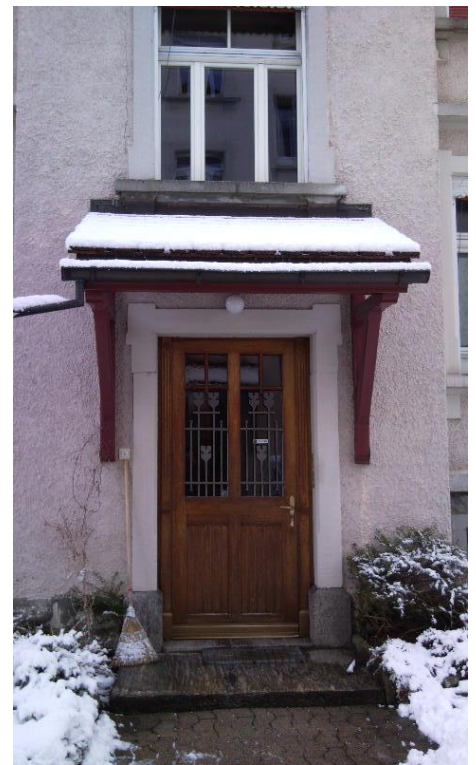
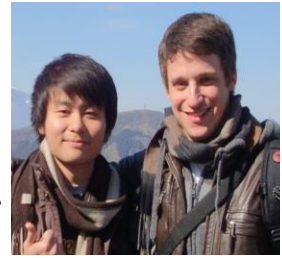
Title: スイス人っていいやつ

Project: Switzerland Name: 中井 和弘

僕が GET で得たもの。僕が GET で失ったもの。今冷静になって比べてみると、GET の偉大さがわかる。授業期間中は週に二回の放課後ミーティング。いざ冬休みに入ったと同時にスイス人の受け入れプログラムが二週間続く。二週間のインターバルを置いて今度は自分達のスイス訪問プログラム。プログラム後、イタリアに数日個人旅行に行き帰国した次の日から新学期が始まり大学に通う。思えば私の春休み二ヶ月、もつといえは秋に入部してからの半年は GET に捧げていたといっても過言ではないだろう。色々外にも選択肢はあったと思うが後悔はない。だって僕が GET で得たものは、二ヶ月だとかそんな時間で計れないほど貴重な体験だと思っているから。

パートナーのスイス人はとても気配りができ頭もよく面白くて、単純にいいやつである。自分は実家住まいなのだが、受け入れ中は両親とも一緒に食事に行くなど楽しく過ごすことができた。訪問中も一緒にたくさんチーズを買って食べたり、バイクの後ろに乗せてもらったり本当に満喫することができた。スイス人は勉強熱心なだけでなく、しっかりと遊ぶ時には遊ぶことを心得ていて楽しい学生生活を送っていた。

僕が GET で得たものは、国際交流体験、たくさんのナイスな日本人メンバーとの出会い、スイス人メンバーとの出会い、企業訪問企画の経験、JF など本当に GET でしか得られないものだと思う。この先の大学二年間、そして社会人になってからも、今回の経験を通じて得たスキルや人とのつながりを大事に精一杯頑張っていきたいと思う。平凡な生活に気の利いたスパイスをきかせてくれた GET のみんなに本当に感謝したい。



PHOTOS

